



平  
 入  
 七  
 種  
 古  
 書  
 卷  
 五



遠  
 1.667  
 子





本喜

横谷富三佐

今様古四巻卷之五目録

郷土定文庫

一 圓乃きぬむらさきとて因果

編汁あじは身みと夫うさ女め侍さむらひあり  
猫ねこ乃の命いのちとたると娘むすめあり

二 竹たけはくわとて常とこ人ひと也

竹たけはくわとて常とこ人ひと也  
年としよりたてとて海うみなる

千七

二五





















第廿四回



第廿五回











とじしやれどもあてぬとひつらり。このふかむらと  
うら。何をもたすてなれど。れら。一人のまげんのだい  
付とあり。よりの付は。このまげんのだい。おそる。これ  
れ。つとも。人は。ぬやう。おさめて。まわり。な。ん。ぞ。て  
ぬ。とい。う。に。は。ら。う。て。や。び。ん。ふ。か。り。く。せ。の。付。の。女  
高。と。ひ。く。ず。に。な。ん。と。あ。た。て。や。り。さ。う。会。乃。て。あ。う。ぐ。で  
と。も。ち。あ。り。と。わ。ら。い。く。ら。め。て。ま。ん。り。わ。つ。付。の。ぞ。ま。れ。て  
鳥。の。着。く。ま。し。孫。と。う。れ。は。て。ん。ご。う。ま。つ。つ。あ。ら。む。ん。て  
わ。ー。が。せ。ぬ。と。え。ん。ぬ。に。氣。づ。く。ま。田。全。の。き。や。い。さ。ひ  
ぢ。か。か。ま。ま。よ。つ。て。後。の。ぬ。わ。ん。ち。ん。と。し。氣。と。う。つ。て。こ  
た。の。ひ。と。か。ら。て。女。帝。よ。う。う。い。か。づ。り。と。ま。ん。あ。ら。せ。い。

つきて。ゆ。い。日。り。り。ま。う。ま。れ。ど。ち。い。わ。う。び。い。う。づ。や。の  
ぐ。と。ぬ。う。す。を。い。ら。せ。よ。こ。の。ら。と。つ。よ。の。よ。い。あ。げ。は  
つ。ぞ。三。百。六。十。日。本。海。う。む。ら。り。て。船。う。や。え。り。と。と  
一。夜。よ。う。あ。り。ま。ま。か。ら。ら。れ。わ。て。ぬ。日。に。あ。う。ん。の。ま。ひ  
く。に。あ。ら。う。す。ん。は。い。く。ま。う。う。す。い。の。の。お。ん。ち。あ。り  
び。い。ん。ち。ら。う。も。あ。り。考。え。し。て。つ。し。し。と。か。り。ら  
い。い。ま。い。に。び。て。も。す。じ。す。と。百。ま。ん。ご。の。せ。ら。わ。う。と。教  
と。い。く。ま。う。して。我。を。う。り。せ。う。い。よ。後。と。う。ま。す。ん。や。う。い。ま  
何。の。や。あ。ま。ま。う。こ。う。ち。ま。ま。ま。い。な。れ。ま。す。と。一。代。よ。か  
ま。ま。り。て。あ。り。け。り。わ。づ。か。り。や。う。い。や。う。ま。ん。ら。う  
も。か。げ。え。わ。ん。と。わ。ら。せ。い。ら。う。ら。う。ひ。あ。り。け。り。大。ん。ん。若。



けをどろろとて其身のゆくすゑさうりかゝりたり  
 とはさうの井のうたかりまがれ一むいとのわりとまぢんだ  
 むさううんで死んだ人とんびまゆくも親とてうづす  
 ぶしひかりひまふはたよさこよりおろろのけさひ田  
 よはちまうとどつてけぢらねさうひひ月夜よひ  
 けみそてけげまうとけううすぐおちてんてまきとら  
 いたうもでんぐをておろろややんちり一人のつら  
 又資堂資娘とぬらうとて一人のさうはんぐとておぢら  
 うんおちらうたさう寺の墓もて一人のさうはんぐと  
 後よてお病の命とけまうもわんれかりひかくあぢ  
 とかこもあうらひぬてんてとせむは多通のちまう

しやうまのいてうもてまうひていひさういひのあん  
 ぬつたていもつらむれどまうこのつらくもゆせむだれ  
 とらめをたうよまうさうたどんお島わげなよれよて  
 おまて今こをひまうねあむらまうとてまういよん  
 あまてとてけいもあすともぬさうよとにんぐつね  
 ぐやまわぐび親又まれよらたてまうよあつまうと  
 らもけいもつにえも若よかるとてうてかうあひの  
 かそいもちううあてとてまうまんのつらとてまうよ  
 へまう人まうすのまうまうまうまうまうまうまう  
 ちうまのねぐまうまうまうまうまうまうまうまう  
 ちうまのねぐまうまうまうまうまうまうまうまう



一、まてちまのりちるうじんあどいつくまうららりまが年  
 ころてはらひるまのあさひのこさぬこそ世乃あひせと名れ  
 けうけて老とあさひはまがうららひるまのあさひとて  
 るくじんのかまんががまよとてけもはらひてそのゆ  
 かとむすまのうらされてまがわらぬまがうらまのう  
 さもいでらららあくまの毒業とまのうらまのうらま  
 けいそまのあさひあやらんとまのあさひまのうらまの  
 いまのあさひまのあさひまのあさひまのあさひまの  
 まのあさひまのあさひまのあさひまのあさひまの  
 てまのあさひまのあさひまのあさひまのあさひまの  
 六、まてちまのりちるうじんあどいつくまうららりまが年



六、まてちまのりちるうじんあどいつくまうららりまが年



しや。あちあち恐ろしき事どもありて。毒菓のまろしき  
ひきまきくわらわら。あちあちあちあち。出入のいぢりあか  
まうけして。さうくころちりまのよなめけひのぞうあても親  
のあひりて。それがの悪人とわつれよあまらうさ海川乃た  
しけあたれもとまらうとまられう。其あやうの十月は秋  
又もそたらねがはなとまらんあうりめとかりて。頼乃あ  
まつり。躬のね根あつまるくのこれぞや。わらわらぬじ  
ごりひぞうくごありしかりく。むじやうとまらん。あま  
とりとあひすんごまらう。孝り。ほーれとのふり。後ら  
とまられ

三 八筆せうしんまはる八

とまられ  
せ  
あひぬ

ふとてまらん切死舟の字の。累代神傳止の神傳れ。あちあち  
しき今の神代ま。ころびのやかくと神傳面ふとゆうて其  
あやうしてとまらう。まあとのむねむとこのはらうあ縁そして  
うろんのまらうとまらう。正法の時傳代とまらうとまらう  
つとせいかむ山。松は定ちまらうとまらう。同まらうとまらう  
と。境目のうんととまらう。まらうとまらう。けつとまらうとまらう  
けつ。後らあちあちあち。あちあちあち。あちあちあち。あちあち  
ころらけして。あちあちあち。あちあちあち。あちあちあち。あちあち  
そくとまらうとまらう。あちあちあち。あちあちあち。あちあちあち。あちあち  
うらとめらうとまらう。あちあちあち。あちあちあち。あちあちあち。あちあち  
也。賢哉田高とまらうとまらう。あちあちあち。あちあちあち。あちあちあち。あちあち















































